

高速で発消色する化合物

関東化学が販売 青学の開発成果

ホログラフイー―応用可能に

すことも確認した。
このような高速発消色
反応を示す化合物は世界
でも初めてとしており、
高速変色型の調光サング
ラスなどに加えて、ホロ

グラフィイー方式の立体映像再生ディスプレイへの利用が可能。関東化学は各種フォトクロミック化合物を取り扱っており、研究開発向けを中心にこの新規化合物の販売を近く開始する。
なお、同化合物は4月15日から開催される「フラインテック・ジャパン」で紹介する。

関東化学は、高速で発色・消色する新規有機化合物の販売を開始する。青山学院大学・理工学部 阿部二郎准教授が開発したフォトクロミック化合物で、紫外光を照射したときだけ無色から青色に変わり、光を遮ると瞬時に無色に戻る。同社が販売する第2世代品は、消色時間を改善して残像を認識できないようにしたほか、高分子フィルムへの適用が可能といった特徴を持つ。将来的にホログラフイー方式の立体テレビへの応用が期待されている。

阿部准教授らの研究グループは昨年、紫外線照射によって無色から緑色

に発色するフォトクロミック化合物（1-INDP I-8-TPII-ナフタレン）を開発している。同化合物を溶かした溶液に光を当てると照射した部分だけ発色するが、光を遮って消色するまでに約200ミ秒かかるため、目視でわずかに残像が確認できた。

今回、新たに開発した化合物（pseudogem-bisDPI「2・2」パラシクロファン）は青色に発色するもので、発色状態から約30ミ秒で消色するため残像を認識することができない。さらに高分子フィルム中では約20ミ秒で消色し、繰り返し耐久性を示

化学工業日報
2009年4月1日 (水)